

<p>所 感</p> <p>視察しての感想 や岡崎市への提 言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・堺市は大阪市に隣接して大阪府のほぼ中央に位置し、人口も 80 万人余を有し、岡崎市の 2 倍である。近年、人口増により周辺の公園も再整備時期を迎え、この原山公園もその一つである。堺市は都市公園のほかにも、緑豊かな「仁徳天皇陵古墳のあるまち」としても全国に知られている。この原山公園も、緑豊かな自然林と農業用ため池、カフェ、流水プール、広場、遊具等を配した未来への公園として再整備される。公園の周辺は高層住宅や市街地に囲まれており、完成すれば多くの市民に親しまれる公園として未永く利用されることが見込まれる。本市にも、この原山公園とよく似た公園として南公園がある。この南公園も再整備のときを迎えている。特にプール等の整備は早急な対応が必要である。多くの疑問点の中で、次の事項を感じた。 駐車場の配置 入退場門の管理方法 照明設備の充実と犯罪への対応 四季を感じる樹木の配置方法 遊具の安全管理。 ・急がずにもう少し競争を働かせてもよかったのではと思うが、近大病院の移転の計画が迫っていたのか残念である。 プレイパークの場所と方法、維持管理費と指定管理費の確認、P F I ですぐれた提案について質問し、駐車場の位置、屋内プールの扇形、カフェの位置は職員では考えつかなかったとのこと。また、 駅周辺の活性化を考え駅前のガーデンシティとダイエーの跡地の活用を質問。来訪者は泉ヶ丘のときも多くが自動車である。周辺に民間の駐車場あり。ダイエーの跡地がマンション、ガーデンシティの跡地にダイエーが入るとのこと。質問した中で、樹木の管理費には市の持ち出しもあるかと思われる回答があった。私自身はP F I 方式には反対で、職員の企画能力が不足していくのも心配。P F I にしなくても、設計の段階で住民要望や独自のアイデアを盛り込むことは可能だと思う。 ・夏の利用だけで年間 10 万人の市民が訪れる泉ヶ丘プール（大人 510 円、小学生 200 円）の移転に伴い実施された原山公園再整備運営事業だが、健康づくりとまちづくりを合わせた事業として、南公園プールや今後求められる施設の展開について、本市にも大いに参考となる話を伺えた。もともとの環境、土壌は違えども、駐車場のこと、歩くための仕掛け、民間活用など、上手に活用できる部分を当てはめていけるとよいと思った。 ・町の変化による屋外プールの移転に伴い、公園の再整備計画が進められたとのことである。屋外プールやジム、憩いの森など計画の中身と意図を確認した。森の面積が広く、気軽に自然環境に触れられることは魅力の一つと考えられる。また、民設民営によるカフェの併設により利便性の向上も考えられている。しかし、その後の森林管理や運営については若干の不安を感じるが、幅広い年齢層の健康づくりを目指すコンセプトは参考になった。岡崎市南部の南公園は、劣化に伴い再整備が必要と考えられている。南公園とは公園自体の考え方が違うものの、整備に向けての手法や公園デザインの重要さは参考になるものと考えられる。
---	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・年間約 10 万人が利用する泉ヶ丘プールの代替施設及び駅周辺の活性化につなげる施設として、P F I手法を用いて整備することを計画し、25 メートル室内プール、スライダー 2 基付き屋外プールの建設費約 36 億円、20 年間の管理費約 11 億円の計約 47 億円の事業である。入札は 1 者のみで、正直価格設定が厳しかった模様である。本市もプール建設の際は参考にしてほしい数値と感じた。 ・南公園の再整備を将来実施する必要がある。現在はパブリックサービスに環境整備や運営を指定管理で実施し、比較的良好な運営がされている。流水プールやスライダーなどを設置することも今後考えられると思うが、原山公園のように P F I での運営が適切ではないかと感じた。また、行政が考えるよりも事業者のほうが敷地の効果的提案がやはりできるのだと今回の視察を通じて再認識させられた。原山公園の事業コンセプトである、「子供から高齢者まで誰もが健康づくりを愉しむきっかけをつくる公園」という視点も重要であると感じた。 ・公園再整備について、堺市は「子供から高齢者まで誰もが健康づくりを愉しむきっかけをつくる公園」をコンセプトとして進めた。また周辺の活性化、にぎわいの創出を図ることも考えていった。25 メートルプール 6 コース、流水プール、多目的コート、カフェ、森林の中を散策できるコースなど整備される事業である。本市も南公園のプールの改修を進めていかななくてはならない。南公園は原山公園に類似しているので参考となる内容である。南公園内にある野球グラウンドを南部地域に移転することを考え、南公園内に幼児用プール、流水プール、屋内プールを整備することを考えていくべきである。屋内プール施設内に、屋内プレールーム（屋内子供遊び場施設）設置を考えていくべきである。 ・原山公園は、公園といわれながらも手つかずの森のような状態で、近隣住民も近づかない公園であった。そんな公園をなぜ今まで整備しなかったのかが疑問に残る。しかしながら、市民の憩いの場の一つである府営の泉ヶ丘プールが移転せざるを得ない事情ができ、急速にこの計画が進んだようである。事情とは、府営住宅と泉ヶ丘プールの用地に、近畿大学医学部附属病院ができるため、堺市にとっては手つかず状態であった公園を再整備するための、予算面を含めた整備環境が整ったようだ。整備にあたっては、公園整備に終始するだけでなく、最寄り駅からの動線のにぎわいをも取り戻そうとした仕掛けも考えているようで参考になった。近隣にある公園と 3 キロメートルほどの距離を緑道でつなげていることは、安全な散歩やサイクリング等が可能で、健康まちづくりの参考にしなければならない。
<p>委員長の総括</p>	<p>本市においては、県営グラウンド岡崎総合運動場が本市に移管されプールがなくなったことで、市民にとってプール施設が南公園内のプールのみとなってしまった。その南公園プールも再整備の計画中であり、そのために原山公園再整備基本計画について視察、調査を行った。 (参考になった内容)</p>

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ P F I手法により管理・運営がされている点は参考になった。言うまでもないが、公園設計にも民間の知恵が上手に盛り込まれている。・ 公園利用者も年間 10 万人以上とうかがい、それだけの魅力があると理解した。それに伴う駐車場設備や照明設備にしても、民間の経験が多く盛り込んであった。・ 本市は、「住みやすいまち」と市民から高く評価されている。しかし、南公園再整備計画がされる中で、今まで整備されなかったことが疑問である。この機会に「住みやすいまち岡崎」にふさわしい施設となることを大いに期待したい。 |
|--|--|